

図書館機能調査中間報告会 議事録

開催日時: 平成 31 年 3 月 23 日(金) 14:00~14:30

開催場所: 中央図書館視聴覚学習室

事務局: 教育部長 岩田 光寿、生涯学習課長 柴山 利之、
生涯学習課チーム長 黒川 衆史、生涯学習課 高橋 達也、杉江 麻衣、小林 将人

- 次 第:**
- 1 これまでの経緯について
 - 2 市民意向調査結果について
 - 3 知多市新図書館のあり方について
 - 4 今後の予定について
 - 5 質疑応答

配布資料: 資料1 知多市新図書館基本計画(案)概要版
資料2 知多市新図書館基本計画(案)のパブリックコメントについて

議事内容

事務局 ただいまから、知多市図書館機能調査中間報告会を開催する。司会進行を生涯学習課長の柴山が務めさせていただくので、よろしく願う。開会に先立ち、教育部長の岩田よりあいさつを申し上げる。

部長 現行図書館は昭和 55 年 7 月の会館より約 40 年経っており、施設のバリアフリーへの未対応など様々な課題が上がってきている。こうした中、朝倉駅周辺整備基本構想で人が集まる公共施設として新しい図書館の建設が持ち上がった。最近では、居場所や交流連携の場所として様々な機能を持った特色のある図書館の建設が多くなっている。知多市も図書館の基本コンセプトからリニューアルするいい機会ととらえ、基本計画作りを行ってきた。現行図書館の課題や新しい図書館のイメージを市民の方の意向を調査するため、市民アンケートや市民ワークショップを行ってきた。今回の中間報告会では、その結果や基本計画案を報告させていただく。また新しい図書館ではこれまで以上に情報発信や市民グループの皆さんが活動できる場所作りに努めていきたいと考えている。新図書館の運営方法や活動の場のあり方についてみなさんから意見をいただき、検討を進めていくのでよろしく願う。

※次第1の「これまでの経緯について」から次第4の「今後の予定について」までを一括して事務局より説明

1 これまでの経緯について(資料なし)

事務局 現行図書館は昭和 55 年 8 月の開館以来 40 年近くの年月が経過し、施設や図書館システムの老朽化、授乳室がないなど子育て世代をはじめ多世代の利用者への配慮や図書館に対する市民ニーズの多様化、バリアフリーへの対応など、様々な課題が生じている。市では、玄関口である朝倉駅周辺のにぎわい創出を図るため「朝倉駅周辺整備基本構想」を策定しており、この構想において、にぎわいを創出する施設のひとつとして、図書館の導入が期待されている。現行図書館の課題対応のため、平成 30 年度に図書館機能調査として市民アンケートなどにより市民ニーズや時代に沿った図書館のあり方を検討してきた。検討の段階だが市民意向調査の結果や学識経験者、市民から構成される知多市図書館機能調査検討委員会の審議を経て、現行の図書館の課題対応は部分的な改修等による対応は困

難と判断し、新図書館整備の方向のもと、現行図書館の課題、市民ニーズ、新図書館の基本方針、サービス、施設計画、事業計画等の案を、検討しており、本日、その取り組み、検討状況を報告するものである。

2 市民意向調査結果について(資料なし)

事務局

新図書館の整備検討にあたり、市民の意向を調査するため「アンケート調査」と「市民ワークショップ」を行った。アンケートは、市民アンケートと図書館利用者アンケートの2つを実施した。市民アンケートの対象者は、市内在住の16歳以上の無作為抽出した2,000人として5月17日(木)に調査票を送付、6月7日(木)を調査回答期限とし実施し、回収件数は、900件であった。利用者アンケートの対象者は、市内在住の16歳以上の中央図書館及び八幡、東部、旭の各まちづくりセンター図書室の利用者で、実施期間は、市民アンケートと同様の5月17日(木)～6月7日(木)まで、実施場所は、中央図書館と八幡、東部、旭の各まちづくりセンター図書室で実施し、回収件数は、517件であった。「図書館の利用目的」については、全体では書籍・雑誌を借りるための最も多い傾向にあったが、10代は宿題・勉強などの学習目的が最も多く、40代以上は気分転換やリフレッシュ目的の割合が大きくなるなど、年代によって傾向が異なることが分かった。「スペースの希望」については、全体では「屋内でゆとりつろいで閲覧できるスペース」が最も多い傾向にあったが、年代別にみると、10代は、自習・仕事ができるスペースの希望が最も多く、30代は、他の年代と比べて子どもとつろいで話せるスペースの割合が大きく、先ほどと同様年代によって傾向が異なることが分かった。「サービスの希望」については、全体では「持ち込んだパソコンやスマートフォン等がインターネットに接続可能になるサービス」が最も多く、10代が特に希望していることが分かる。また、60代70代は、「調べものや図書館内にある図書の案内相談の充実」が比較的多く、先ほどと同様年代によって傾向が異なることが分かった。「雰囲気希望」については、「ゆとりがあつてつろげる雰囲気」が61.2%と最も多くなっている。ついで、「柔らかで落ち着いた雰囲気」が46.6%となっている。「充実させてほしい資料の希望」については、「料理・旅行・地図類などの実用書」が50.3%で最も多く、ついで、「小説・読み物などの文芸書」が42.1%となっている。「開館時間や休館日の希望」については、7割以上の方が「現在のままで良い」と答えている。「飲食の取り扱いの希望」については、「館内の一部で飲食ができる」と良いが55.0%と最も多くなっている。ついで、「館内の一部で飲み物のみ良い」が18.0%となっている。「BGMの希望」については、「館内の一部で流すと良い」が45.0%と最も多く、ついで、「館内全体で流すと良い」が21.1%となっている。「電子書籍の利用希望」については、「利用するかわからない」が53.3%と最も多くなっており、電子書籍がどのような形で提供されるのかイメージがわからない人が多いことが推察される。まとめとして、アンケート調査では、図書館に求めているものが年代により傾向が異なることが明らかになり、新図書館の整備にあつては、年代ごとの意向も意識した検討が必要だと考えられる。

次に、市民ワークショップでは、「こんな図書館に行ってみたい」をテーマに7月に2回実施し、それぞれ30人と22人の市民が参加した。第1回では、「中央図書館の〇〇がスキ、〇〇がイヤ」をテーマにして、現行の中央図書館について振り返り、中央図書館の「好きなところ」と「好きでないところ」についてグループごとに意見交換を実施した。「好きなところ」の意見として、「自然に囲まれた周辺環境、レンガ造りの建物の外観が好き」、「本が充実しており、様々なコーナーもあるところ」、「児童コーナーと大人用スペースが分かれているところが好き」、「空調が完備されており、過ごしやすい」など、中央図書館の雰囲気や職員の対応の良さ、蔵書に関すること、ボランティア活動、イベントの豊富さなど、さまざまな好きどころが挙がった。反対に、「好きではないところ」の意見として、「駅から遠くて交通が不便、バスの本数が少ないこと」、「静かすぎて気を遣う」、「配架の棚が高く、本を見つけにくい」、「学習スペー

ス、飲食スペースが少ない」、「授乳室、託児所が無い」など、交通アクセスや施設環境の不便さ、スペースや設備の不十分さ、運営の課題などが挙げられた。第 2 回の意見交換では、第 1 回の意見交換結果を踏まえ、「こんな図書館に行ってみたい」をテーマにして、4 グループに分かれて意見交換を行った。各グループから「光がたくさん入って明るく、緑が多い図書館が良い」、「子ども同士、子育て世代同士の交流スペースや子どもの遊び場を設置してほしい」、「ギャラリースペースやカルチャースクールの開催」、「市民が参加できるイベントの開催」など様々な意見・キーワードが出された。「行ってみたい図書館のアイデア」として意見を集約すると、「自然を感じられ、明るく、くつろげる図書館」、「多世代、様々な人が利用できる図書館」、「本をはじめとした様々な情報が充実し、新しい発見や学びのある図書館」、「市民参加によってつくる図書館」となった。

3 知多市新図書館のあり方について

事務局 (資料1の説明)

4 今後の予定について

事務局 (資料2の説明)

5 質疑応答

事務局 質問のある方は、挙手をしていただき、住所地の地区名と名字だけで結構なので氏名を述べてから、発言をお願いしたい。

市民 市民からの声で実現できないものに対して、なぜ実現できないのか回答を行う予定はあるのか。

事務局 今回の計画は、市民アンケートや市民ワークショップを通して市民の方の声を伺い、計画を策定してきたが、実現できていないものがあれば、パブリックコメントに質問していただき、そちらで回答させていただきたいと考えている。

また、本日、ボランティア団体の方にも参加していただいているが、市民活動団体・ボランティア団体の 100 名近くの方たちの協力なくしては、新図書館の運営を行うことは不可能と考えている。団体の方々と協議しながら、より良い方法を探していきたいと考えているので、よろしく願う。

以上